

清流のほとり



令和7年1月9日(木)発行

園長 津田 将美

寄 松田

カラー版はHPで…幼稚園HPのQRコードです↑

手づくりの力

～終業式の話から～

私がまだ小学校に勤務していた頃、朝会で子どもたちに話したいことがたくさんありました。コロナ前にはそんな話を子どもたちの顔を見ながら話すことが好きでした。子どもたちの心は柔らかく、素直な反応を見せてくれたからです。

松田小学校に勤務してからは、コロナ禍でそんな朝会の話もできなくなり、始業式、終業式もすべて放送となりました。そんな中でも放送でいろいろと工夫しながら伝えることで、子どもたちも素直な反応をして感想を届けてくれました。

幼稚園勤務となってからは、どういうお話だったら聞いてくれるのかは、試行錯誤の連続でした。ただ、子どもたちを目の前にしながら話すことができるので、反応を楽しみながら伝えることができたのは幸せでした。結論は、すぐ出ました。

「伝えたいことをしっかり話せば、伝わる」
ということです。

12月24日の終業式に、小学校でしていた朝会での話を初めて幼稚園でしました。日本の伝統的な文化にふれるというねらいで、自分が小学生の時に夢中になった凧作りの話をしたのです。(スライドだけは幼稚園用に用意しました)

小学校の冬休み、毎年挑戦していた凧作りが5年生でやっと成功し、手づくりの和凧が風に乗り空高く舞い上がったこと、凧糸が全部伸び切って友だちに新しい凧糸を買ってきてもらったこと、それを3回繰り返し凧糸4本分まで舞い上がり凧が山の頂上に届きそうだったこと、その時途中の結び目が切れ凧は山の向こうに消えていったこと、それでも成功した満足感、喜びが残ったこと…。



私の予想通り、子どもたちは最後までしっかりと話を聞いてくれました。それは、「伝えたいことがあった」だけではなく、子どもたちとの大きな共通点があったからだと感じました。

それは、「手づくりの力」です。

子どもたちの園での生活が日々、試行錯誤や前向きな挑戦の連続だからです。その中で子どもたちは何かを創り上げた達成感や失敗を乗り越えようとする前向きさを手に入れています。



12月に行われた保育参観発表会では、多くの保護者の方にご参観いただき、本当にありがとうございました。その後の懇談会やお手紙にて、大変担任が励みになるお言葉をいただけたようです。

ストーリーから小道具、大道具、衣装まで正に「手づくり」の発表でした。保護者の皆様が、そのことを本当にご理解くださっているんだとありがたい気持ちでいっぱいになりました。

年少組、年中組の子どもたちが、その演技にあこがれの想いを抱いています。年が明け、またそれぞれの手づくりの活動、成長への歩みが続いていきます。

本年も、よろしくお願いいたします。

